

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	鹿島市立鹿島小学校
1 前年度 評価結果の概要	①学力の向上・・・経年比較において多くの学年が前年度を上回り、教師の授業改善も向上している。 ②豊かな心の育成・・・いじめについての早期発見、早期対応ができ、心の教育の推進ができた。 ③健やかな体づくり・・・体づくり、食育等の教育活動は計画通り行うことができた。 ④働き方改革・・・時間外勤務の減少など職員にも業務の効率化が意識つき始めている。 ⑤特別支援教育の充実・・・支援の必要な児童に関する情報の共有ができた。
2 学校教育目標	いのち輝く 鹿島っ子の育成
3 本年度の重点目標	①学力の向上・・・つながりを意識させる授業作り、読書活動の推進、学習規律及び家庭学習習慣の確立 ②豊かな心の育成・・・いじめの早期発見早期対応、心の涵養、特別支援教育の充実、郷土愛の育成 ③健やかな体づくり・・・スポーツチャレンジへの挑戦、食育の充実、防災危機意識の向上 ④働き方改革・・・児童と向き合う時間や教材研究の時間の確保に向けた業務の効率化

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目										
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○つながりを意識させる授業作り ○読書活動の推進	○学力向上対策評価シートに示した共通実践の成果指標を達成した教師90%以上 ○学年のおすすめの本を20冊選んで読んだ児童80%	・授業づくりのステップ1・2・3の「振り返り」の活用。 ・3冊貸し出しの日における、おすすめの本の推奨。	・7月に授業づくりのステップ1・2・3のチェックを行った。「振り返り」は、平均1.5ポイントであったので、引き続き、声かけを行っていく。 ・10月より図書委員会を中心に「おすすめフライデー」の呼びかけを行っている。意識が高まって来たように感じる。	A	・12月の授業づくりのステップ1・2・3は、「振り返り」の平均が1.9ポイントで上がり、学力向上対策シートの振り返りでは、90%がゴールやつながりを意識しながら学習を進めることができたとしている。 ・「おすすめの本」の目標達成には至らなかったが、年間の目標冊数を達成している児童は、86%であった。また、図書室の本を活用した授業づくりをどの学年も行った。今後とも様々なジャンルの本を読むよう呼びかけることが必要である。	A	・授業づくりのステップ1・2・3の「ふり返し」がうまく活用できている。 ・ゴールやつながりを意識した授業ができたことは学習の成果へつながっていくと思う。 ・読書の習慣が付くような取組がよい。 ・本を手にする人(児童や先生・家族など)の雰囲気を読書力となることを願う。図書室内で本・読書に関する意識向上を図る取組が感じられる。 ・参観日で、子どもたちに考えさせ、意見を出し合うことがよくできていた。 ・読書が大変よくできている。	A	
	○学習規律及び家庭学習の習慣の確立	○鹿島の学び10ヶ条を意識して学習できていると回答した児童80% ○1日に学年で決まった時間学習できていると回答した児童85%	・全校で各月ごとに学習目標を設け、月末には、各クラスで振り返りを行う。 ・「鹿島の学び頑張ろう週間」を設け、子どもの学習時間を把握し、家庭への啓発を図る。	・月末に、立腹の放送後に各月の振り返りを行い、鹿島の学び10ヶ条を意識しながら学習を進めることができている。 ・11月に「鹿島の学び頑張ろう週間」に取り組み、家庭学習の充実を図っている。	B	A	・鹿島の学び10ヶ条を各クラスに掲示し、月末に振り返ったことで、意識して学習した児童が87%であった。 ・学年で決まった時間学習できている児童は、前期は80.7%であった。2月の「鹿島の学び頑張ろう週間」でも、家庭への啓発を続けている。	A	・振り返ったことが、児童の学習意欲につながりつつある。 ・家庭で学習する習慣が付くと中学・高校になっても自宅ですっきり学習ができると思う。 ・家庭学習ができている児童の把握と同時にできていない児童への声かけや対応を継続していただきたい。 ・決めた時間通りに学習できていることがよい。子どもの同級生もできている話をよめます。	A
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○相手の気持ちを考えて行動できていると回答した児童85%	・「やさしさの木」の取組を年間通して行う。 ・「ふれあい道徳」を行い、保護者参加型の授業づくりを行う。	・第1月曜日「あったかタイム」と位置づけ、友だちのいいところを探すことができた。今後は、特定の友だちだけでなくいろいろな友だちの良さを見つけ、書いたことを伝え合うような取り組みをしていく。 ・相手の気持ちを考えて話したり行動したりすることができた児童が91.4%と高く、「あったかタイム」の取り組みや日頃の道徳の授業が他者への思いやりの心を育てる一助になっている。	A	・第1月曜日の「あったかタイム」は、年間通して実践することができた。異学年の友だちへの感謝や良さを紹介するさしきの花も、放送で紹介することで意識付けを図ることができた。 ・相手の気持ちを考えて話したり行動したりすることができた児童が88.5%と前期より約3%下がっている。日頃の道徳の授業や人権週間・人権集会等での学習で自分を振り返り見つめ直した結果と考えられる。	A	・「あったかタイム」が年間を通して生かされている。 ・自分中心の考えではなく相手の気持ちを考えて行動できるようになることは、人として大きく成長していると思う。 ・保護者参加型の取組は継続してほしい。(他者への思いやり、相手の気持ちを尊重する言動は家族間でも大切に育て育んでいけるように。) ・いじめ等が問題になる中で相手の立場になり、よいところを探して伝えることが優しい児童を育てることにつながっていると思います。	A	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校が楽しいと回答した児童85%	・教育相談週間の設定。 ・Q-Uアンケートの実施。職員研修による分析、考察、実践。	・5月の教育相談習慣に実施によって、児童の悩みや困り感を早期に把握することができ、学級指導に役立たせることができた。 ・Q-Uアンケートの実施とその分析研修が、実践に役立つ内容だったので、すぐに学級経営に生かすことができた。 ・教育相談は毎月案内を出しSGIに乗けることで、児童や保護者の悩みの早期発見に繋がっている。	A	・毎月実施されたいじめアンケートにより、いじめの早期発見・早期解決・早期報告が確実にされたので、大きな問題もなく過ごすことができた。 ・教育相談の希望が多く、毎月有効に活用されてよかった。 ・「学校が楽しい」と答えた児童が78.7%と1回目からは若干上がったものの、目標値より低かった。クラスにより偏りがあり、学級経営のあり方を見直し改善していく必要も感じられた。ただ、保護者の評価は91.8%と非常に高かった。	A	・毎月実施のいじめアンケートや教育相談が早期発見・早期対応に生かされている。 ・自分中心の考えではなく相手の気持ちを考えて行動できるようになることは、人として大きく成長していると思う。 ・保護者参加型の取組は継続してほしい。(他者への思いやり、相手の気持ちを尊重する言動は家族間でも大切に育て育んでいけるように。) ・いじめ等が問題になる中で相手の立場になり、よいところを探して伝えることが優しい児童を育てることにつながっていると思います。	A	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・児童個人に良さを伝えたり、みんなに広げたりして、自己肯定感を高める。 ・「一歩一歩」の振り返りの充実。 ・「一歩一歩」の実践の紹介	・先生に良い所を認められていると感じている児童が90.5%と高く、日頃の声かけや励まし効果的に行われ、信頼関係が構築されているのがうかがえる。今後も全職員で、自己肯定感の高まるような対応を心がけていく。 ・将来の夢や目標を持っていると答えた児童は81.6%だった。今後も、毎日自分の決めた「一歩一歩」を実践することで、粘り強く取り組む姿勢を身に付けさせていく。振り返りカレンダーや放送などで意識を継続させていく。	A	・先生に良い所を認められていると感じている児童が前回と同様で90.5%と高かった。日頃の声かけや励ましが効果的に行われ、教師と児童の関わりが深くなり、信頼関係が構築されている結果だと考える。 ・将来の夢や目標を持っていると答えた児童は80.1%で少し下がったが、目標は達成できた。毎日自分の決めた「一歩一歩」を実践することで、粘り強く取り組もうとする児童を育てることができた。日々の振り返りが難しい児童もいるので、チェックの方法の検討を考えたい。	A	・教師と児童の関わりが、密にない限り結果が出ていない。 ・教師と児童のよい関係が構築されていることはとても素晴らしいことだと思う。児童の意欲向上にも大きく貢献している。 ・認められる信頼関係は将来の人間関係の在り方、意欲等の基盤となる。 ・先生達ができるべく一人ひとりの児童と関わっていらっやいます。 ・学年行事を通してよくできていると思う。	A	
	◎地域・保護者と学校の連携・協働	◎地域の方と一緒に学習に興味があると回答した児童80%	・各学年1単元以上、地域人材を生かした、体験学習や環境学習等を行う。	・地域内外の専門家による指導を、どの学年も実施したり計画したりしている。児童の回答も81%で、充実した学習が行われていると感じられる。	A	A	・全学年、地域人材を生かした体験学習を行うことができた。地域の方と一緒に学習活動に対して、88.9%が楽しく回答した。専門家による指導は、学習意欲の向上にもつながっている。	A	・地域人材を生かし体験学習ができている。 ・地域の方々の授業が多くあつてよい関わりがもてていると思う。 ・地域の人と共に体験学習ができる環境作りをしてもらっている。地域を愛する心が大人にも児童にも同様に芽生える。	A
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ●「運動習慣の改善や定着化」 ●「健康に良い食事をしていく」児童生徒80%以上	○スポーツチャレンジは体力づくりに役立っていると回答した児童85% ●「健康に良い食事をしていく」児童生徒80%以上	・スポーツチャレンジを休み時間やひまわりタイム、体育科での体づくり運動に取り入れる。 ・ひまわりタイムを活用し全校で取り組み、表彰を行う。 ・給食センターと連携した食育指導。	・前期は各クラスでのスポーツチャレンジ実施だったため、達成率は83.5%にとどまった。後半に向けてひまわりタイムや新体力テストと実施種目の関連を図り、達成率を向上していく。 ・保健便りや毎日の給食時の放送などで啓発を行い、「健康に良い食事をしていく」児童が91%であった。	B	・後期にかけて長編に取り組んだことで、達成率を90.9%にまで向上させた。日頃の声かけや励ましが効果的に行われ、教師と児童の関わりが深くなり、信頼関係が構築されている結果だと考える。 ・将来の夢や目標を持っていると答えた児童は80.1%で少し下がったが、目標は達成できた。毎日自分の決めた「一歩一歩」を実践することで、粘り強く取り組もうとする児童を育てることができた。日々の振り返りが難しい児童もいるので、チェックの方法の検討を考えたい。	A	・保健便りの発行や食育授業、給食週間の活用がうまくいっている。 ・給食のある期間がよいが、長期休業中の朝食、昼食がきちんと栄養のある食事がとれていない児童がいるのではと感じている。 ・「食育」の取組は家庭にも浸透することを期待。(児童から保護者へ伝えて意識改善につなげる) ・昼休み等もよく走り回っている児童が多くてよい。給食時の放送もよいと思います。	A	
	○よりよい生活習慣の形成	○あいさつ、廊下歩行、無言掃除ができていると回答した児童85%	・年5回の「生活リズムパワーアップ運動」の実施。 ・生活目標の振り返りや取組例を紹介する。 ・生徒指導だよりを発行し、全職員で共通理解・共通実践をしていく。	・定期的な取り組みを継続することで、児童や保護者の意識を高めることができた。 ・生徒指導だよりを毎月発行し、生活目標や生徒指導に関する指導事項を全職員で共通理解することができた。 ・「あいさつ、廊下歩行、無言掃除を守ることができた」と回答した児童は85.7%であった。	A	A	・定期的な「生活リズムパワーアップ運動」を実施したことで、自分の生活を振り返る機会を設け、生活リズムに対する意識を引き続き高めることができた。 ・毎月月初めの全校朝会を生徒指導担当から生活目標に関する話をし、指導の徹底を図った。「あいさつ、廊下歩行、無言掃除を守ることができた」と回答した児童が86.1%と向上した。	A	・あいさつ、廊下歩行、無言掃除が守られ生徒指導ができている。 ・静かに人の話を聞く時、元気に声を出して良い時等、場面に合った態度ができていると思う。 ・校内での元気な声での「あいさつ」が校外でも同じようになっていることを願う。中・高生が特に高校生の「あいさつ」がお手本となっていることを感じる時もあほほほほ。 ・定期的に学校訪問をする中で無言掃除がよいできていると感じます。あいさつがもう少し大きな声でできたらいいと思いました。 ・挨拶は、4月よりよくなりました。	A

●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定(毎週金曜日)及び確実な実施(定時退勤ボードの活用)。 ・教職員の時間外勤務について1か月あたり前年度比3%削減。	B	上限時間は守られてはいるが、超える月もあった。担任でなければならない業務、担任以外でもできる業務、ICT活用で効率化が図れる業務を確認し取り組んでいきたい。	A	・業務の効率化推進を行い、働き方改革への意識を高めることができた。今年度の目標値23時間に対し、23.4時間であり改善傾向にある。	A	・業務の効率化等が働き方改革への意識が高められている。 ・働き方改革は、高い意識といろいろな工夫にあると思う。改善傾向にあることはよいことだ。 ・児童の「教育」に関わってくださる先生方の心身の健康を優先した業務時間であってほしい。 ・人手不足の中で、色々と試していく中で改善していくしかないと思います。
	○児童と向き合う時間や教材研究の時間の確保に向けた業務の効率化	○効率的な教育活動するための個人の取組目標を達成できた教師90%	・放課後の時間確保。 ・連絡会の効率化。 ・デジタル掲示板の活用。	B	優先順位、タイムマネジメントなどにより効率化の推進はできつつあるが、教材等についての情報共有をさらに推進したり、デスクトップの整理を促したりする必要がある。	B	・個人の取組目標を達成できたのは、7割程度にとどまった。ICT活用能力のスキルアップとともに、校務のデジタル化を推進して時間の確保に努めていく。	B	・達成率が低い。 ・今後の取組に期待したい。 ・個人の達成度7割は謙虚な回答と想像される。児童との日々の向き合いに時間を費やして下さっていると思う。 ・デジタル化は他の小学校に比べてよくできていると思います。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○安心・安全な学校づくり	○危機管理意識の高揚	○災害や事故から命を守るための行動について理解できたと回答した児童90%	・年2回の避難訓練等における安全指導の強化。 ・集団登校の各班の自己評価及び定期的な集団下校の実施。	B	・前期は5月に火災・地震対応の避難訓練を実施した。消防署員の方を招いて実践的な指導を行うことができた。非常階段を使用した避難方法の問題点を整理し、児童が安全に避難することができた。 ・毎月登校班長に登校の状況をふりかえらせ、結果を全校に知らせた。安全に対する意識が高まってきている班が増えたが、まだ十分ではない。各家庭やボランティア、警察署、交通指導員と一層連携を強化し、職員全体で歩調を揃えて指導していく必要がある。	A	10月に不審者対応の避難訓練を実施した。市内の警察官を招いて、避難の様子を見てもらうとともに、不審者に遭った時の対応について話をもらった。また、12月には職員対象に不審者対応の講義を実施した。さすまたの使用方法など、実演を交えて話をしてもらい、職員の意識も向上した。後期も登校状況のチェックを継続して行った。登下校時の大きな事故、問題行動も少なく、95.6%の児童が災害や事故から命を守るための行動について理解できたと回答したことから、児童の安全に登校する意識が向上していると考えられる。	A	・命を守ることを確実に児童や職員に伝えることができている。 ・状況のチェックや訓練、講義は、継続的に何度も行うことが大切だと思う。 ・危機管理意識への取組は、自然災害、人為的災害など訓練を繰り返して実施してほしい。 ・保護者にも認識してもらい安全指導の強化は、地区の区長さんはもちろんのこと、育友会長さんの参加の声かけも。 ・学校だより等で見えています。公共機関とよく連携をされていて意識づくりに生かされていると思う。
○特別支援教育の充実	○個に応じた指導、支援の充実	○的確な児童理解で配慮を必要とする児童への指導を工夫できたと回答した教師90%	・配慮が必要な児童の資料の有効活用。 ・合理的配慮に関する職員研修の実施。	B	・92%の教師が配慮を必要とする児童への指導を工夫できたと回答している。 ・配慮が必要な児童の共通理解を図り、活用しやすいところに資料の保管をしている。 ・合理的配慮に関する職員研修を夏期休業中に実施した。	A	・95.7%の職員が、配慮を必要としている児童への指導を工夫できたと回答しており、中間評価よりさらにポイントが上がっている。 ・配慮が必要な児童の個人資料を作成し、有効な引き続きのための準備を整えることができた。	A	・配慮を必要としている児童への指導が有効に行われている。 ・配慮が必要な児童も増えてきていると思うが、その指導や支援がよくできていると思われる。 ・配慮を必要としている児童への指導に関わる先生方の数は十分に確保できているのか、先生方の業務疲労が心配。 ・児童の顔色・態度の変化を気遣ってもらっていると感じます。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>①学力の向上・・・つながりを意識した授業の共通実践は学習意欲の向上に結びついている。さらに表現力の育成を図るとともに、読書の推進・家庭学習の充実を図る。</p> <p>②豊かな心の育成・・・毎月のアンケートにより、些細なことでも先生に伝える体制が整ってきた。今後も、自己肯定感、自己有用感の向上を図っていく。</p> <p>③健やかな体作り・・・生活習慣を振り返ることにより、よりよい生活につなげることができている。今後は、食事の内容や運動の習慣化に向けた取組も充実させていく。</p> <p>④働き方改革・・・業務改善に対する意識は向上してきている。さらに、職場環境の改善に取り組むと共に、個々のスキルアップの機会も作っていく。</p>
----------------	--